

事務事業マネジメントシート

事務事業名 体験型観光企画調整事業		本年度担当課	観光推進課						
		前年度担当課	観光推進課						
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり			新規・継続	継続事業			
	政策	01 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業			
	施策	02 魅力ある観光資源の開発と整備			市単独・国県補助	市単独事業			
	基本事業	03 宿泊、体験型観光の推進			任意・義務	任意的事業			
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				事業 区 分	実施方法	直営	
	一般	XX	XX	XX	体験型観光企画調整事業		事業分類	その他市民に対する事業	
事業計画		単年度繰り返し	事業期間	平成26年度 ~			市長公約	該当なし	
根拠法令・条例等								総合戦略	該当なし

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）												
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
体験型観光を展開している施設管理者が、関連する情報を収集・共有して、施設間の連携を推進するため企画調整会議を開催し、個々のメニューの見直し、磨き上げ、新企画を行う。					体験メニューを持つ「あきやま学寮」「根古屋森林公園」「蓬山ログビレッジ」の3施設の指定管理者と連絡を取り合い、各施設の現状や問題点を把握、共有し、更なる連携の強化を図った。							
										活動指標		単位
					各施設との協議回数		回	24	24	24	24	24
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）												
体験型観光メニュー					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
体験メニュー数		個	34	41	42	42	42					
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）												
体験メニューを希望している団地等を誘致し、宿泊客数の増加を図る。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					体験型宿泊施設の利用者数		人	目標 34,000	24,000	24,500	25,000	25,500
					体験型宿泊施設の宿泊者数		人	実績 6,262	10,053			
			目標 14,100	9,000	9,100	9,200	9,300					
			実績 1,891	3,708								
④結果（どのような結果に結びつきますか？）												
観光客に本市で宿泊・体験してもらう。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
体験型宿泊施設の宿泊者数		人	目標 14,100	9,000	9,100	9,200	9,300					
			実績 1,891	3,708								
			目標									
			実績									

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0.04		0.06		0		0		0
	人件費計(B)	千円	293		437		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	293		437		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	体験型観光企画調整事業	本年度担当課	観光推進課
		前年度担当課	観光推進課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成22年3月に策定された第1次佐野市総合計画基本構想・中期基本計画リーディングプロジェクトに該当し、平成26年3月に同後期基本計画にも位置づけられ、体験型観光の主要な部分であるメニューの充実を図るため、平成26年度から開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	外国人観光客の増加に伴い体験を中心としたコト消費が旅行における重要な要素となっている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	施設の指定管理者より施設間の連携強化を図るため、定期的に会議等を実施して欲しいとの要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上しなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
具体的な改善方法を見いだせなかった。			成果向上余地がかなりある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症の影響により観光客が戻ってきていないことが理由であると考えられる。また、施設側の運営の面でも受入体制に問題があった。		体験メニューについて、多方面から提案を募集する。施設側受入体制について、指導をし宿泊客の増加を図る。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中	○			
	小				
	成果向上余地				